

事業所自己評価シート

令和5年度(2023年)

*保護者(17/22 回収率 77%)・職員(4/4 回収率 100%)

職員による自己評価

A環境面

児童の発育に合わせた椅子の準備など、物品整備を行っている。また感染対策として、共有部分の消毒順守や職員が感染媒介しないための防護具、食事場面のテーブル配置など環境面の配慮も再考した。

B児童への支援内容

利用者の状態を把握し始業時の打合せで共有する事で統一した支援を行う事が出来ている。他事業所交流や地域住民、機関との交流などを再開実施している。

C関係機関との連携

相談支援事業所の担当者会議や学校との情報共有は行なえており、連携を図る事が出来ている。

D保護者への説明責任・信頼関係

日頃から送迎時にご様子をお伝えし、適時電話連絡等で状況や課題について情報共有を行う事で共通理解を持てていると思われる。またご家族と相談の上、対面面談や電話面談を行い、信頼関係の構築に努めている。

3月に事業報告会を実施し、事業所状況等についてお伝えする機会を再開した。

E非常対応

避難訓練は、学校休業期間中に全曜日実施した。ご家族見学、地域消防署立会の上実施、事業所内避難行動に対して評価を受けている。大地震発生後の帰宅対応等については、細部検討が必要である。

保護者による評価

A環境面

環境、体制整備共に「はい」の評価をいただいている。

B児童への支援内容

支援に関しては全ての方から「はい」の評価を頂いている。しかし、障害のない子供と活動する機会についてはコロナ禍もあり実施出来ておらず「どちらともいえない」の評価が多い。

C事業所からの情報発信

日々の様子は連絡帳や送迎時にお伝えしている。また事業所より対応の変更など周知事項があれば書面にてお知らせを配布している。

非常時や感染対応時にまちこみメールでご家族に情報発信をした上で、個々に連絡対応をしている。

D保護者への説明責任、信頼関係

児童、ご家族との意思の疎通や情報共有については評価いただいている。苦情等対応体制についてはどちらともいえないとの意見がある。また事業所感染症発生時の利用自粛期間や同法人施設の利用制限についてのご意見があった。

E非常対応

災害時の避難訓練について概ね「はい」の評価をいただいているが、緊急時対応マニュアルについて「どちらともいえない」の評価をいただいている。



事業所内での分析

【共通点】

・ご家族、利用者参加の夏休み期間のイベントや事業報告会などを交流の機会として設けていく。
・日々の支援に関して、ある一定の評価をいただいていることが分かった。今後ご家族との連携を図っていくとともに、個々の成長に合わせながら、様々な活動を通していろいろな経験を積んでいけるようにしていく必要性を感じた。
・大地震発生後の帰宅対応等については、細部検討が必要であり、災害時伝言ダイヤル等の利用が考えられ、今後練習日などを設定し有事にも対応していきできるようにしていく必要がある。

【相違点】

・苦情等対応体制の周知については、主に利用契約時を中心にお伝えし事業所入口に掲示しているが認識しづらいと思われる。年初などに定期的にお伝えする事があっても良いと思われる。

分析・検討してみて…

事業所の強み

活動の様子をご家族に配布する事で利用者の成長や様々な表情を見る事が出来ている。様々な活動を通して経験を積むことができる。また同法人所属のセラピスト（PT・OT・ST）が活動支援に入るため、多角的に状態を評価し共有する事が出来る。同事業所に生活介護部門があり、年長の利用者との交流の機会が持てる。

事業所の改善点

大地震等発生時の対応等についてご家族との共通認識が必要である。次年度は災害後の事業所の動きなどをご家族に知って頂く事で、より安心していただけると考えている。また事業所イベントの際にご家族同士交流を持てる機会を設けていく。感染症発生時の対応については、早急に情報を共有する事でご家族が対応に困る事が無いように努める。

事業所の改善への取り組み

- ・感染対策などの制限が緩和されていく中、地域とのつながりを再開し活動範囲を拡げていく事で様々な経験を通し成長できる場を作っていきたい。また個々の障害特性や成長に合わせた支援を提供していく。
- ・災害時対応に関しては、今まで通り取り組みを行っていく中で災害発生後のご家族との連絡方法など具体的な内容を情報伝達する事でご理解いただけるようにしていきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

地域や他事業所交流などコロナ禍で制限されていた事が戻ってきている。支援において様々な方法を検討しながら可能性を拡げていきたい。またご家族に対しても日々の支援が見える事業所作りに努めたい。